

## ◆朝日新聞社賞◆

&lt;学校教育部門&gt;

## 『開かれた学校『メディアトリウムの市民開放プロジェクト』』

佐賀県佐賀市立城南中学校

〒840-0016 佐賀県佐賀市南佐賀1-20-1 URL: <http://www.saga-ed.go.jp/school/edq10152/>

## ■実践事例報告の概要

「学校を開く」ことの実現は鈍い。事例があっても「貸館」である。地域の市民が魅力を感じる「学校の優れたもの」は何か。

ITに情熱をかけた学校と、我が国でおそらく初めての中学生講師（JT）と、コンセプトに共感した民間人が織りなす、手作りによる「学校開放」の挑戦の物語である。

## 実践のねらい

生涯学習の定着は教育界にとどまらず、広く社会にとって重要な今日的課題である。また、多くの人々が、生涯学習に興味を持っていることは新聞などのリサーチにより言うまでもない。「小中学校」で行なう「生涯学習」は、一般の市民が足を運びやすい環境のひとつだと考えることができる。

城南中学校は昭和60年佐賀城周辺整備構想策定による都市計画上の動機で平成4年4月に今の地に全面移転改築をした。このとき、21世紀の教育を標榜した斬新な校舎をもとに、教育方法の多様化だけではなく「生涯学習社会にふさわしいコミュニティー施設」となるような理念が盛り込まれていた。

今日の情報通信技術の発展にともない、ITという「現代的課題」を媒介として「学校を開く」ための絶好の機会ととらえた。佐賀市教育委員会と城南中学校が連携して、生徒のボランティアを受けながら、民間人・学校教職員のわれわれがサポートする形で、「市民\*かんたん・ネット・セミナー」（ ）として、「インターネット普及」及び「パソコン操作の学習」をねらいとして行なっていくことにした。

「市民\*かんたん・ネット・セミナー」プロジェクト名由来

「かんたん」は簡単と感嘆の、「ネット」はインターネットとネットワーク（市民、生徒相互）のそれぞれの掛詞。

## 特徴・工夫・努力した点

セミナーのスタッフに城南中の生徒（JuniorhighschoolTeacher：以下JTと略す）

を起用することを考えた。JTのボランティアにより一般講習者に適切なアドバイスができると共に、当プロジェクトの本来の目的である地域社会と学校の親密化を円滑に進められるというねらいが根幹にあった。

学校の施設や環境を借りて、外部民間人だけが講師としてやるのでは、学校と利用者（受講者）の接点はなく、学社融合を目指すことにはならない。また、講師を学校教職員にしても、生涯学習施設としての学校開放には問題点が残る。

このような観点から、生徒と市民のふれあいを第一に考え、中学生を補助講師にすることにした。生徒が先生役になるのである。中高生の問題行動が懸念されている中、違う世代、特に地域の高齢者とのふれあいが、極端に減少していることを鑑みて、何かのきっかけになればと期待したわけである。

## 実践内容

まず、受講者の応募は、佐賀市教育委員会（教育総務課）が毎月2回発行の「市報さが」（[http://www.city.saga.saga.jp/oshirase\\_shiho.html](http://www.city.saga.saga.jp/oshirase_shiho.html)）で広報する。

はがきによる公募で抽選を行い、32名の受講者を決定する。平成12年7月15日スタート時には定員の1.5倍の申し込み数で、現在は4～5倍まで上がり好評を博している。

受講資格の対象となるのは市内居住者・市内勤務者で、セミナー開催は土曜日の午後2時間程度（14：00～16：00pm）全4回で修了、受講料は無料という要領である。

主会場は、城南中学校3Fメディアトリウム（写真1）で、液晶デスクトップPC20台および

ノートPC 12台の合計32台（当初は合計38台でスタート）を使って行なう。今年度より、身障者のために1Fクラブハウス（スロープがあり車椅子で出入りが可能）にPC 3台を新たに設置し、募集を開始したが、校舎の造りが完全に障がい者用になっていないため、上半身は健常であることを条件とした。

また、今年度7月より、同じ佐賀市内の鍋島中学校と神野小学校においても、「鍋島中会場」「神野小会場」として同じ要領で募集し開催した。

講習者を初心者に限定し、全4回を通じてWindowsの基本操作・インターネット・Eメールを講義し、受講者全員がマスターすることが目標である。城南中は学校インターネット（文部省・通産省指定）のインフラが整備され、CATV回線による高速通信が可能である。

また、メールアドレスも城南中独自のドメインが与えられているので、登録削除も自由自在である。毎回、受講者32名分のメールアドレスを作成し、実際に外部にメール送信ができるわけである。4回の講義内容は、次のようにしている。

#### 1回目：Windowsの基本操作

PCの電源、マウスの基本操作、ドラッグ&ドロップ、コピー&貼り付け、MS-IMEの基本的な使い方（日本語の入力）、ペイントによるマウス操作の練習。

#### 2回目：インターネット操作（その1）

リンクの仕組み、メニューボタン（ツールバー）の使い方、Yahooによる検索、httpアドレス（受講者の方に事前に持参準備）の入力によるHP閲覧。

#### 3回目：インターネット操作（その2）

Yahooによる検索（ことばによる検索を含む）、Webページからの画像の貼り付け。

#### 写真1・3Fメディアトリウム

本校の学校図書館として位置づけ、書籍・PC・プラズマTV・電子ボード・DVDなどあらゆる機器を整備し、「課題探求型学習」を可能にする学習情報センター。Media center & auditoriumからの造語、普通教室の約13教室分の広さ(885㎡)で、吹き抜けの大空間。



#### 4回目：メールの送受信

メールの仕組み、城南中ドメインを使って登録された自分のメールアドレスからの送信および受信、返信・転送。（外部に送信の場合は、受講者が事前にメールアドレスを持参し準備する。）

また、1回目の初めには簡単な開講式として、挨拶の他に全体の内容説明、JTの紹介などを行うようにしている。最終回には閉講式を行う。このときには、修了証を1人ひとりに渡している。

その修了証は3回目のときにデジタルカメラで撮った受講者の顔写真をフォト紙に1枚ずつ

市民開放のようす



印刷し準備（手作り）しておく。4回目がメールの内容なので、その修了証は添付ファイルとしてメールでも送信し、粹な計らいであると自負している。

受講者の方は、自分の写真が載っている修了証がメールで送信されてきて、驚きとある種の感動、照れくささも味わっておられるように感じる。

市民\*かんたん・ネット・セミナー

## 市民\*かんたん・ネット・セミナー

市教育委員会  
では、地域との  
ふれあいの場と  
しての学校づく  
りを目標として、初心者対象のパソコン教室「市民\*かんたん・ネットセミナー」を開催します。

・対象 市内居住の方で、パソコン操作が初心者の方  
・場所 城南中学校  
（南佐賀一丁目）  
・内容 ウィンドウズの基本操作、おまびんインターネット・Eメールの基本操作

・期間  
▽第1回（7月15日・22日・29日・8月5日（計4回））  
▽第2回（8月12日・19日・26日・9月2日（計4回））  
14時から2時間程度

・費用 各300円  
※申し込み者多数の場合は抽選  
・受講料 無料  
・申し込み方法 往復はがき  
住所、氏名、年齢、職業、住所

連絡のつく電話番号、希望する期割（第1回か第2回）を記入の上、〒840-8501 佐賀市栄町1-1 佐賀市教育委員会教育総務課「市民\*かんたん・ネット・セミナー」係までお申し込みください。  
（7月10日必着）

※講師は、城南中の情報教育アドバイザーが担当します（城南中の生徒もお手伝いします）  
◎お問い合わせ 教育総務課 24・3151内線416まで。

全体にわたって、JTの存在は大きい。受講者の方も気軽に中学生に尋ねることができるからである。城南中の生徒はリテラシーについては、日ごろから十分にPCを活用しているので初心者対象であるならば基本的なことはだれもが“教える”ことができる。

JTは部活動としてはなく、まったくのボランティアである。他の体育系の部活動との両立や、個人的な所用でいつでも、というわけにはいかないが、多いときで20人弱ぐらい、少なくとも5～6人ぐらいの参加体制である。受講者の方にも、「聞きやすく、学年や男女に関係なくだれでも優しく教えてもらえる」と好評である。

実践 結果

市民の反響はすこぶるいい。「講義がかた苦しくなく和気藹々で行うことができた。」とほとんどの方が好感的である。使用するテキストもいろいろと工夫し、すべて手作り（A4版カラー印刷）にした。他の公的な類似教室や、民

間の有料パソコン教室との棲み分けを意識し、初歩的なスキルに徹したのがよかったと思われる。

昨年度は、7月15日スタートの第1期生38名から始め、第6期生まで輩出した。合計214名に登った。毎日新聞をはじめ、地元佐賀新聞にも掲載され、注目を浴びた。受講者の感想には次のような声を聞くことができた。

「大人の講師にはちょっと気が引ける質問でも、子どもたちには気軽に尋ねられる。親切に教えてもらってわかりやすかった。(68歳男性)」  
「孫くらいの年でも立派な先生。気軽になんでも聞ける。(73歳男性)」

受講者の年齢層も小学1年生(6歳)から70歳以上の高齢者の方まで幅が広く、職種も多様な方々ばかりのようである。

一方、JTの方の感想としては、「頭では分かっているのに人に教えるとなると戸惑った。次はもっと上手に教えられるようにがんばりたい。」「緊張した。話しかけるタイミングが難しかった。」「先生の大変さが分かった。」「最後に『ありがとうございます』とお礼を言われてすごくうれしかった。」など教育的効果としても貴重な体験を与えることができたと思われる  
(<http://www.city.saga.saga.jp/doc/542093fdf5db302c49256a9300298f10.html> 参照)

今年度は6月16日から始め、第7期生を送り出したところである。鍋島中会場と神野小会場の分をスタートさせたこともあり、城南中会場の今後の予定は、学校行事との兼ね合いもあり、9月1日より第8期、10月6日より第9期、11月17日より第10期のそれぞれの開始予定である。

## 考 察 ( 今 後 の 課 題 )

セミナー開始当初に描いていたねらいは、構想通り達成することができた。市民への啓蒙も進み、「開かれた学校」という点では軌道に乗せることができた。あとはこれを継続していけば市民全体に行き渡り、ますます充実すると思われる。佐賀市長は「世界No.1インテリジェント田園都市：佐賀市」をキーワードとしてあげられている。

課題は、何といてもJTの確保・育成である。生徒はもちろん3年間で卒業するわけで新入生に対して新たにボランティアとして活動できる生徒を呼びかける以外にない。さらに、開

催会場に限定されている現在のJTの活動の場を他の開催校にも広げ交流をすること、少しずつでも実施校の輪を広げること、小学生JTの養成や小中交流へと拡充していくこと、市全域においてJTのネットワークができればなどの展望を持ちながら進めたい。

また、国のIT推進事業等で行う民間パソコン塾とは一味違い、JTや学校開放など学校が恩恵を受ける点をこのプロジェクトの存在意義ととらえている。

現高校1年生で当時JTであった卒業生の中には、このネット・セミナーの経験を生かし、これがきっかけとなり、進学先を情報処理科や商業科に決めた生徒もいる。メディアリテラシーに自信を持って高校に入学し楽しい充実した学校生活を送っているようである。

回線上のトラブルも課題の1つである。学校インターネット1の指定により快適な情報環境にある反面、福岡県篠栗のHelp Deskの管轄に置かれている。常時待機ではなく月～水曜の3日間勤務体制であったので、トラブル時には緊急に対応してもらうことができなかった。中央NWCや笹栗のサーバーが不具合などによりダウンすると不通の状態になる。

実際に昨年度は、のべ24回(第1期～6期)のうち3回もダウンし対応に追われてしまった。そのうちの1回はメール体験を行うときのダウンだったので、作業はメールアカウント作成からになり復旧にかなりの時間が必要となった。笹栗に連絡が取れずに学校インターネット2のHelp Desk(佐賀市駅南本町)に多大な迷惑をかけてしまう結果となった。

講義内容については、インターネット関係は問題ないが、メールについては、現在のままだといくら外部に送信してもその返事を受信することが不可能な点(メールアカウントは4回目 が終了すると削除)を昨年度末に総括・反省点としてあげた。

3回目の内容をメールにして外部に送信しておいて、1週間後の4回目のときにその返信を受信できるようにすると楽しさも倍増するだろうという案も考えたが、PC1台1台に設定と削除を繰り返さなければならず、また、講義内容の全体的なバランスを考えると無理が生じることになる。一長一短あるところで、欲張らずに最初の予定通り、初心者が対象ということ を最優先させることにし今年度もスタートさせた。